

子ども会活動をふり返って…

栗本麻記子

私は4年生の夏休みに引っ越ししてきたのでこの田中野田子供会で、2年半活動を続けてきました。西小は集団登校なので以前いた子供会に比べ、他の学年の人とも楽しい活動ができました。

子供会活動の中で一番思い出に残ったのはマラソン大会です。それは、走りぬいたときにすごくうれしかったし、思ったよりもいい成績だったからです。大人から子供までみんなで走り、みんなで汗をかくことはまたとないきかいなので、これからも続けてほしいと思います。

今まで子供会活動に参加してきて、本当によかったと思います。この経験を今後も生かしたいと思います。

6年間の子供会行事の思い出

和氣佳代子

小学校生活も終わり間近になった頃、ふっと頭の中に6年間の思い出がうかんできました。

1年の頃には、子供会ですること、まったく慣れず、するべきことが分からず、とまどうことの多い毎日でした。また、5年生、6年生の人がとても大きく見え、少しこわいような気もしました。

汗をかき、大きいかけ声をかけながら、みんなとつかいだおみこし、わしゅう山ハイランドのこわいながらも楽しかったお化け屋敷、そしてスリルあるジェットコースター。

ボートの試合には、お世話をいただいたお父さん、お母さん方のおかげで、何回も出させてもらいました。最初、思うような動きが出来なかったけれど、いろいろ教えてもらって、少しはうまくなったと思っています。みんなと一生懸命頑張った試合、二度も三位を取れ、とてもうれしかったです。

グラウンドで、ポートとソフトのお別れ会を、私達のためにしてもらいました。監督、コーチと一緒に、最後のポートボールの試合もしました。

このさまざまな子供会の思い出は、中学生になっても決して忘れることはないと思います。



『わが郷土を語る』その4

《笹ヶ瀬川はかつて 汐入川であった》

田中野田地区の北西端から南東へ流れている笹ヶ瀬川を、私が子どもの頃は「しおがわ」と呼んでいた。当時は、笹ヶ瀬川の水が塩からいからそう呼ぶのだろうと考えていたが実は「汐入川（しおいりがわ）」であることから「汐川（しおがわ）」と呼ばれていたのである。

とにかく、昭和33年、児島湾の入口が堤防で締め切られてからは笹ヶ瀬川に潮の干満がなくなつた。それまでは、満潮のときは堤防の外の水位は私たちの住む宅地より高くなっていたわけで、笹ヶ瀬川の堤防は洪水を防ぐ堤防であるとともに、潮水が侵入しないように住宅地などを守る防潮堤でもあったといえるのである。

また、昭和10年頃笹ヶ瀬川の河川改修工事がなされた。

現在の御南中・技能開発センター・福祉センターの敷地となつてるところを旧堤防沿いに流れていた水路が、現在の水路に変えられたのである。

そして、葦で覆われていたところが水が流れるように掘ったその土砂で川を埋め立て、いまの県公舎・鳥城彫作所・御南中・技能開発センター・岡山西養護学校・福祉センターの敷地となつている土地が生れたのだ。

笹ヶ瀬川は今では潮の干満もなくなり、大雨のとき以外は水位も低く安定している。海水が入り混じって塩からかった水も真水に変わった。いや単に変わったということばではすまされない大異変が川におこった。汐入川であった当時に見られた魚介類の姿が消えたのである。

それまでは近くの笹ヶ瀬川（しおがわ）でおいしい「シジミ貝」がたくさんとれていたし、子どもの頃からお父さんとこの川で漁を楽しんでおられた大森治代吉さんらの話によると

コイ・フナ・イナ・ボラ・ウナギ・ハゼ・アミ・シラサエビ・ママカリ・アシナメ・ソナシ

などのほかに、今では信じられないかもしれないが「シラウオ」もとれていたという。児島湖の淡水湖化によって、笹ヶ瀬川はもう昔の姿にもどることはないだろう。また、上流とその周辺地域の都市化によって多量に出る生活排水がもたらす川の汚濁のために、笹ヶ瀬川はもはや魚介の住めない死の川になってしまった。文明を進める近代化は、われわれがこれを追求すべき指標かもしれないが、そのために何かが失われ、貴重な何を犠牲にしなければならないのであろうか。「しおがわ」を見うとき、考えさせられることではある。

島根県宍道湖の淡水化がいま問題になっている。そしてその成り行きについては私は人ごとのおもえないのである。

（中尾佐之吉）

“縁”という言葉

和氣正明

私はどこかで“縁”という言葉の端的に表現する英語は無いということを知りました。それは縁という言葉がいろいろの意味をもっているからだだと思います。ふち・ゆかり・ちなみ・てずる・関係・から仏教での「原因をたずけて結果を生じさせる作用」まで縁は注目にあたります。

茶道で大切にされる一期一会の心も縁を大切にすることでもいえるのではないかと茶心を知らぬ者が考えています。

先ほど縁に相当する単語が英語には無いと書きました。しかし、縁を大切にすることは外国人も持っているのは確かです。私は先日、米国人に道を尋ねられ二言三言話しました。別れ際に彼は「ナイス・トーク・トゥー」(あなたとお話してよかった)と言いました。お話するといったほど長いものではなく、ほんのわずかの間でしたが彼が「ナイス」と表現し「シー・ユー・アゲイン」(またお会いしましょう)といって別れました。

お茶の一期一会・街角に於ける一期一会・またお会いしましょうという縁を大切にすることは万国に共通するのではないのでしょうか。昔は血縁とか地縁が大切にされました。これからは社会との縁・社縁が大切にされねばならないようですが、縁を大切にすることに変わりはありません。ただ縁が拡がりをみせているのでしよう。

私も縁あって田中野田町内に帰りました。町内の歴史も慣習も行事も何にも分からない者ですが「縁無き衆生は度し難し」にならぬよう頑張りたいと思います。

何卒よろしくお引立て賜りますようお願い申し上げます。

田中野田町内会の新しい仲間

(3月20日現在)

1組	清水 英範	田中
3組	星野 広宣	田中
5組	吉崎 昭	平田
8組	松田 俊隆	田中

編集後記

「ふれあい新聞」も、本日第6号の発刊となりました。

原稿の中心が、町内行事の案内や報告ものから、このたびは、子ども会・子ども会OBにも原稿を依頼したところ快く投稿していただきました。

同時に、田中野田の風景も区画整理等が進められる中、今までの建物や橋等がなくなっていくようで、何とか出来ないかと考え、とりあえず写真班(中原カメラマン)が、町内を駆けずりまわって、多くの風景をとることができましたので今後シリーズで紹介していく予定です。